第１２回技術シンポジウム

交通インフラの利活用

～　まちとひとを道でつなぐ未来づくり　～

令和二年 11 月 12 日(木)　13:00-17:10

アクロス福岡Ｂ２Ｆイベントホール（福岡市中央区天神 1-1-1）

主　催：九州大学

共　催：西日本高速道路株式会社

後　援　　国土交通省九州地方整備局　　（公社）土木学会西部支部　　（公社）地盤工学会九州支部
（一社）九州橋梁・構造工学研究会　　（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部
（一社）日本建設業連合会　九州支部　　（一社）九州地域づくり協会

第１２回技術シンポジウム

交通インフラの利活用

～　まちとひとを道でつなぐ未来づくり　～

目　次

≪基　調　講　演≫

『移動文化の変容がもたらす新しい地域社会像』　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

坂口　光一（一般社団法人 イドビラキ 代表理事 / 九州大学 名誉教授）

≪講　演≫

『世界があこがれる九州をつくる～with/after コロナの地元創生～』　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

村岡　浩司（株式会社 一平ホールディングス 代表取締役社長）

『応援・チャレンジの連鎖が地域を変える～ヒトに目線を合わせたまちづくり～』　・・・・・・・・・・・・・　１９

木藤　亮太（株式会社 ホーホゥ 代表取締役 / 株式会社 油津応援団 専務取締役）

『高速道路を活用した地域創生プロジェクト』　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

濵野　昌志（西日本高速道路株式会社 九州支社 総務企画部 地域連携担当部長）

≪パネルディスカッション≫

『地域の発展と高速道路への期待』　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

コーディネーター：坂口　光一　　パネリスト：村岡　浩司、木藤　亮太、濵野　昌志

第 12 回技術シンポジウム

交通インフラの利活用
～まちと人を道でつなぐ未来づくり～

2020年
11月12日㊍
13：00～17：10
（開場 12：15）

アクロス福岡
B2F イベントホール
（福岡市中央区天神 1-1-1）

プログラム

13：00～13：05　開会挨拶

13：05～14：05
『移動文化の変容がもたらす新しい地域社会像』
坂口　光一（一般社団法人 イドビラキ 代表理事・九州大学 名誉教授）

14：05～14：15　休憩

14：15～14：45
『世界があこがれる九州をつくる ～ with/after コロナの地元創生～』
村岡　浩司（株式会社 一平ホールディングス 代表取締役社長）

14：45～15：15
『応援・チャレンジの連鎖が地域を変える ～ヒトに目線を合わせたまちづくり～』
木藤　亮太（株式会社ホーホウ 代表取締役・株式会社油津応援団 専務取締役）

15：15～15：45
『高速道路を活用した地域創生プロジェクト』
濵野　昌志（西日本高速道路株式会社 九州支社 地域連携担当部長）

15：45～16：00　休憩

16：00～17：00
パネルディスカッション
『地域の発展と高速道路への期待』
コーディネーター　坂口　光一
パネリスト　村岡　浩司・木藤　亮太・濵野　昌志

17:00～17:10　閉会挨拶

開催方法

会場での開催に加え、動画配信も実施いたします。

会場開催
事前申し込みが必要です（先着順）。

HP の「シンポジウム参加申し込み」からお申し込みください。
【締切：10 月 30 日（金）】
※席数の上限に達した場合、先着順といたします。
※CPD 認定はご来場の方のみ対象とします。
土木学会認定 CPD プログラム
（認定番号 JSCE20-0646・単位数 3.5 単位）
※新型コロナウイルスの感染防止対策を実施します。
・入場時の検温と手指消毒の実施
・ご来場時のマスク着用
・ソーシャルディスタンス確保のため、座席の間隔を確保

動画配信
申し込みは不要です。

Live 配信とオンデマンド配信の URL を HP に記載します。
下記 URL または QR コードよりご確認ください。
※CPD 認定はご来場の方のみ対象としますので、CPD 発行は致しかねます。

HP はこちらからご覧ください。
※その他注意事項等詳細も合わせてご確認ください。
https://www.kyushu-u-nexco.jp/index.html

以下の場合には、シンポジウムの開催を中止いたします。
・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令された場合
・講師や実施関係者に感染が判明した場合
・主催者が内容を変更あるいは中止すべきと判断した場合

九州大学 KYUSHU UNIVERSITY　NEXCO 西日本

主催：九州大学　共催：西日本高速道路（株）
後援：国土交通省九州地方整備局、（公社）土木学会西部支部、（公社）地盤工学会九州支部、（一社）九州橋梁・構造工学研究会、（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部、（一社）日本建設業連合会九州支部、（一社）九州地域づくり協会

お問合せ先：西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社　h.sengoku.a@w-e-kyushu.co.jp（仙石）r.matsumoto.a@w-e-kyushu.co.jp（松本）

第 12 回技術シンポジウム
交通インフラの利活用 ～まちと人を道でつなぐ未来づくり～

人口減少、少子高齢化といった課題に直面している中で、わが国が持続可能な社会を実現するためには、各地域がそれぞれの特徴を活かしながら成長していく必要があります。また、最近では、新型コロナウイルス等の影響により、新しい価値観やライフスタイルを創出していくことが求められています。このような中で、都市と地域とのつながりを築き、人・モノの交流を支える交通インフラが望まれています。

本シンポジウムでは、九州各地の地域創生の事例について紹介します。地域に根ざした活動だけではなく、九州全体、さらには国内外への発信・展開を目指す取り組みについても紹介します。本シンポジウムを通して、地域創生に求められる交通インフラの役割や、次世代の新しい交通インフラの可能性について考えます。

講演者 略歴

坂口　光一　一般社団法人 イドビラキ 代表理事・九州大学 名誉教授

1953年 福岡県大牟田市出身　1980年 東京大学大学院工学系研究科 都市工学修士課程修了
1980年～1996年 公益財団法人九州経済調査会に奉職
・産業･経済・地域の調査・研究、行政の計画策定支援に従事
1996年9月～2019年3月 九州大学に奉職(工学部、工学研究院)
・ベンチャービジネスラボラトリーにおいて起業家教育プログラムの開発、産学連携システムの構築に従事
・ビジネススクール教員兼務（2002年度～2004年度）
・「技術と感性の融合」をめざす戦略的研究拠点育成プログラム「ユーザーサイエンス機構」の研究プロジェクトに従事
・文理横断型の大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻の起ち上げと教育に従事（2009年4月～2019年3月）
2019年5月　一般社団法人イドビラキ設立
・「ひと・もの・まち玄気製作所」をコンセプトに、未来を創造していく協働クラフト型の社団として活動中、現在に至る。

村岡　浩司　株式会社 一平ホールディングス 代表取締役社長

“世界があこがれる九州をつくる”を経営理念として、九州産の農業素材だけを集めて作られた九州パンケーキミックスをはじめとする、「KYUSHU ISLAND®/九州アイランド」プロダクトシリーズを全国に展開。台北やシンガポールの「九州パンケーキカフェ」は食による日本の地方創生モデルとして話題を呼び、予約の取れないカフェとしてブームを巻き起こしている。現在では多数の飲食店を経営する一方、九州各地にて様々な地域貢献活動や食を通じたコミュニティ活動にも取り組んでいる。メディア出演：カンブリア宮殿、NHKワールド、日経プラス10、日経ビジネス、東洋経済　他多数。ローカルイノベーター55選、日本を元気にする８８人（フォーブスJAPAN）に選出。「第１回 九州未来アワード」大賞受賞。「ICCクラフテッドカタパルト2019」優勝。 著書に「九州バカ 世界とつながる地元創生起業論（発行=文屋 発売=サンクチュアリ出版）」。

木藤　亮太　株式会社ホーホゥ 代表取締役・株式会社油津応援団 専務取締役

1975年生まれ。宮崎県日南市が実施した全国公募で選ばれ、2013年7月よりテナントミックスサポートマネージャーに着任。“猫さえ歩かない”と言われた油津商店街の再生事業に取組み、約4年で25を超える新規出店、企業誘致等を実現。商店街再生の好事例として国や各地から大きな評価を得ている。
その後は自らのルーツがある福岡県那珂川市に拠点を移し株式会社ホーホゥを設立（2018年1月より）しJR博多南駅前ビル「ナカイチ」を地域コミュニティを育む場として再生、2020年3月には全国誌「ソトコト」の表紙を飾った。2019年8月には株式会社バトンタッチ（2019年7月より）を設立。39年の幕を閉じた老舗喫茶店「キャプテン」を継承し、話題となっている。

濵野　昌志　西日本高速道路株式会社 九州支社 総務企画部 地域連携担当部長

1970年大分県出身
1993年日本道路公団へ入社後、広島管理局に配属。2005年の民営化以降、本社経営企画課長代理、九州支社では事業開発課長、総務課長を歴任。九州支社佐賀高速道路事務所長を経て、2019年7月より現職。高速道路を活用した地方創生プロジェクトをはじめ、新たな地域連携に関するプロデュース兼ディレクターの役割を担っている。
他に、自治体における地方創生総合戦略有識者会議委員や九州大学産学官民連携セミナー「地域政策デザインスクール」でフェローなども務める。

基　調　講　演

『移動文化の変容がもたらす新しい地域社会像』

坂口　光一

（一般社団法人 イドビラキ 代表理事 / 九州大学 名誉教授）

移動文化の変容がもたらす
新しい地域社会像

一般社団法人イドビラキ
代表理事　坂口 光一

自己紹介

Ⅰ．イントロ
Ⅱ．コロナと交通・観光
Ⅲ．移動文化の変容
Ⅳ．ハイウェイのモード転換
Ⅴ．新しい地域社会像
Ⅵ．まとめ

自己紹介

Ⅰ．イントロ
Ⅱ．コロナと交通・観光
Ⅲ．移動文化の変容
Ⅳ．ハイウェイのモード転換
Ⅴ．新しい地域社会像
Ⅵ．まとめ

自己紹介

一般社団法人イドビラキ

ひと・もの・まち 玄気製作所

地元・足元・自分の
個性・固有性を深く掘り、耕す

自己紹介

地下で植物が菌類をとおして繋がっているように、
井戸の底の水脈も深くつながっている。足元の共生圏。

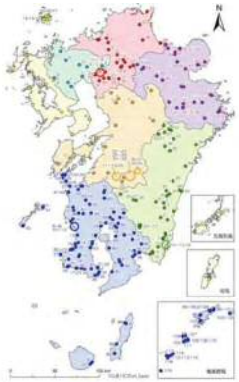
自己紹介

九州が誇るオンリーワンの宝「焼酎」の文化を世界へ

焼酎発展祈願祭

“九州スピリッツ”

300蔵



自己紹介

天神５丁目

多拠点活動者
シェアコミュニティ
Qross

自己紹介

Ⅰ．イントロ
Ⅱ．コロナと交通・観光
Ⅲ．移動文化の変容
Ⅳ．ハイウェイのモード転換
Ⅴ．新しい地域社会像
Ⅵ．まとめ

イントロ

1．BCの世紀からACの世紀へ

Before Corona、After Corona

イントロ

環境⇒感覚⇒意識⇒行動

というプロセス

移動における文化的側面の浮上

イントロ

ソーシャルディスタンシング

「三密」

「近接する」「集まる」への抵抗感

イントロ

イントロ

イントロ

stay home

ロックダウン、緊急事態宣言

自他を「疎隔」、社会からの「自主隔離」

イントロ

イントロ

ニューノーマル

新たな「常識」「規範」そして「行動」

イントロ

イントロ

スローに生きる

イントロ

スローダウンし、立ち止まり、よく考えるいい機会

And though self isolating may at times be hard, many people of all faiths, and of none, are discovering that it presents an opportunity to slow down, pause and reflect, in prayer or meditations.

４月５日
エリザベス女王
新型コロナコロナウイルス対国民特別演説

イントロ

ローカル（地域）

ネイティブ（固有・土着）

イントロ

出所：星野リゾートHP

イントロ

マイクロツーリズム、3つのポイント

出所：星野リゾートHP

自己紹介
Ⅰ．イントロ
Ⅱ．コロナと交通・観光
Ⅲ．移動文化の変容
Ⅳ．ハイウェイのモード転換
Ⅴ．新しい地域社会像
Ⅵ．まとめ

コロナと交通・観光

近・少・短

【高速道】＊8月利用者（対前年比）
（軽＋普通）遠距離になるほど減小率大
＜評価＞ 近距離の足としての存在感

【高速道 VS 鉄道 VS 航空】＊8月利用者（対前年比）
（減少率）高速道：2割
鉄道：4割
航空：7割
＜評価＞
① 遠距離移動の減小＞近距離移動の減小
② 集団移動から少人数・個人移動へ

交通・移動における
ニューノーマル

① テレワーク、脱オフィス、脱通勤
② 移住、多地域居住、多拠点活動
③ ワーケーション、 ワークツーリズム
ノマドワーカー
（ 仕事、移動、余暇の非分離・一体化）

定額全国住み放題の
「ADDress」
ホステル利用で通勤圏を広げる
「Hostel Life」
自由な生き方を実践する
「LivingAnywhere Commons」
共遊空間を楽しむ
「ハンモサーフィン」
宿泊先でプロジェクトに挑戦する
「WORKATORS」

コロナと交通・環境

トラベルバブルからの
ツーリズム再構築

コロナと交通・環境

【泡の中】

① 新しいボーダー感覚

② ローカルな安心共同体

自己紹介

Ⅰ．イントロ

Ⅱ．コロナと交通・観光

Ⅲ．移動文化の変容

Ⅳ．ハイウェイのモード転換

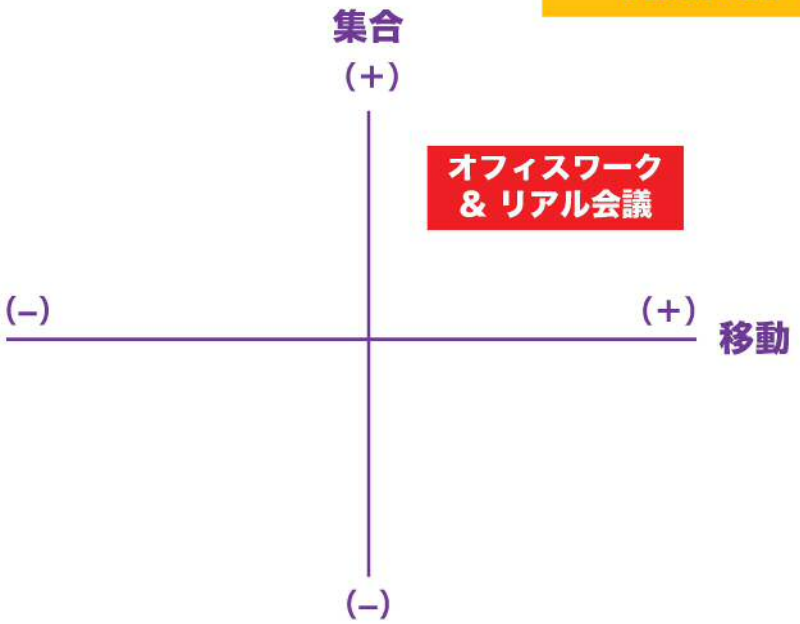
Ⅴ．新しい地域社会像

Ⅵ．まとめ

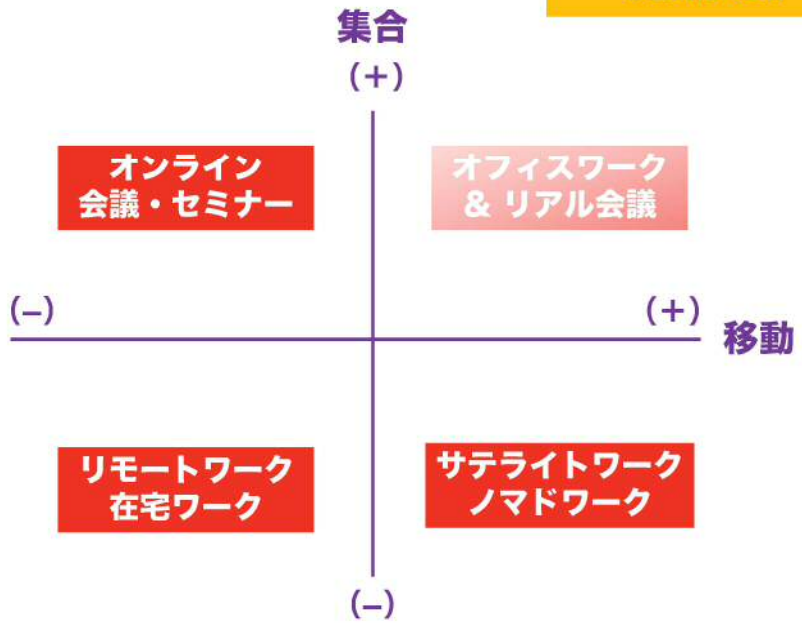
移動文化の変容

「移動すること」
「集まること」

移動文化の変容



移動文化の変容

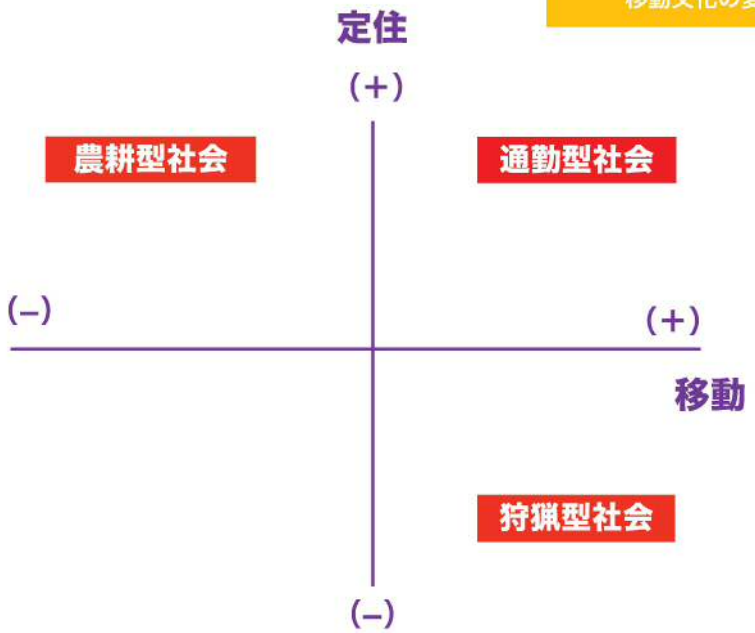


移動文化の変容

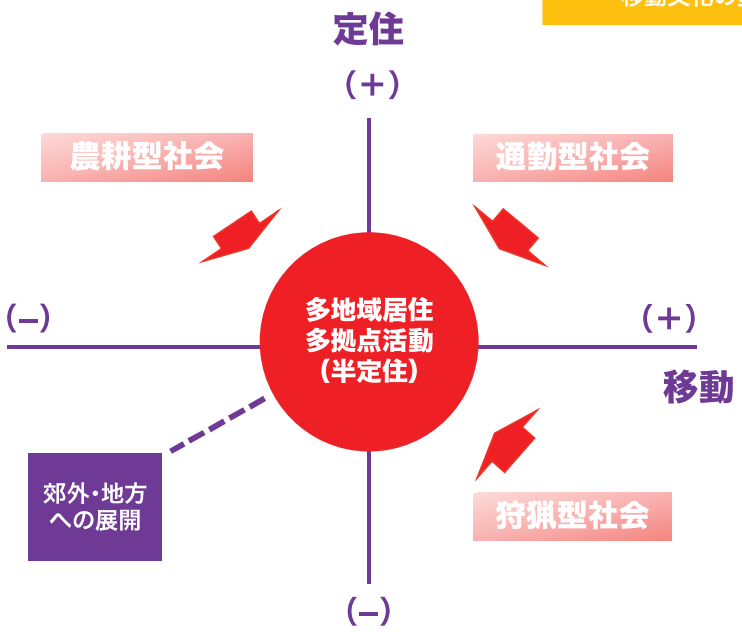
「移動すること」

「定住すること」

移動文化の変容



移動文化の変容

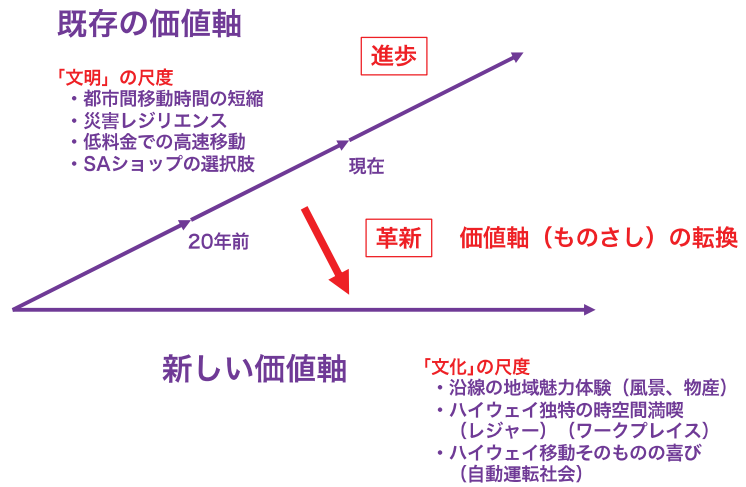


移動文化の変容

交通の「進歩」
移動の「革新」

移動文化の変容

交通の「進歩」と移動の「革新」



自己紹介

Ⅰ．イントロ

Ⅱ．コロナと交通・観光

Ⅲ．移動文化の変容

Ⅳ．ハイウェイのモード転換

Ⅴ．新しい地域社会像

Ⅵ．まとめ

【モードⅠ】
大都市と地方のネットワーク

【モードⅡ】

α　地域との交流・連結・循環

　　＝ハイウェイ

β　「異日常」との接点・通路

　　＝ ハイスペース

ハイウェイのモード転換

例えばこんなことができたら・・・

来週のゼミは玖珠SAでやろう！
きょうはハイウェイ図書館@別府湾SAで
一日、本を読もう！
霧島SAのドライブインシアアーに
「もののけ姫」を見に行こう！

自己紹介
Ⅰ．イントロ
Ⅱ．コロナと交通・観光
Ⅲ．移動文化の変容
Ⅳ．ハイウェイのモード転換
Ⅴ．新しい地域社会像
Ⅵ．まとめ

新しい地域社会像

① ハイウェイがつなぐ
自律・分散・連結・循環社会

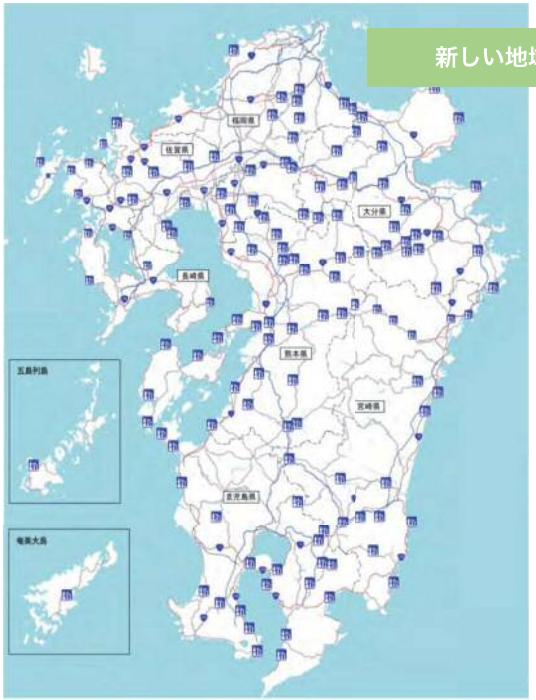
新しい地域社会像

（例えば）
300ビレッジ（文化経済圏）のネットワーク
1時間交流・文化経済圏の展開
（1hr. 1 village creation movement）
産業の6次化→地域の6次化→九州の6次化

ハイウェイ
ステーション

新しい地域社会像

道の駅
（130駅）



新しい地域社会像

新しい地域社会像

② 「3つのE」から「3つのS」へ

新しい地域社会像

Expansion、Economy、Efficiency

（拡張・成長）　（経済ファースト）　（効率重視）

Slow、Sustainable、Share

（深耕・熟成）　（持続・循環）　（共感、共創）

自己紹介

Ⅰ．イントロ

Ⅱ．コロナと交通・観光

Ⅲ．移動文化の変容

Ⅳ．ハイウェイのモード転換

Ⅴ．新しい地域社会像

Ⅵ．まとめ

まとめ

ハイウェイの価値軸シフト～文明から文化へ

スローなハイウェイライフを九州から

めざせ “LX”（ローカル･トランスフォーメーション）

『サナギのひみつ』

『サナギのひみつ』（三輪一雄、ポプラ社）

－メモ用紙としてお使いください－

講　演

『世界があこがれる九州をつくる』
～with/after コロナの地元創生～

村岡　浩司
（株式会社 一平ホールディングス 代表取締役社長）

－配布資料はございません－

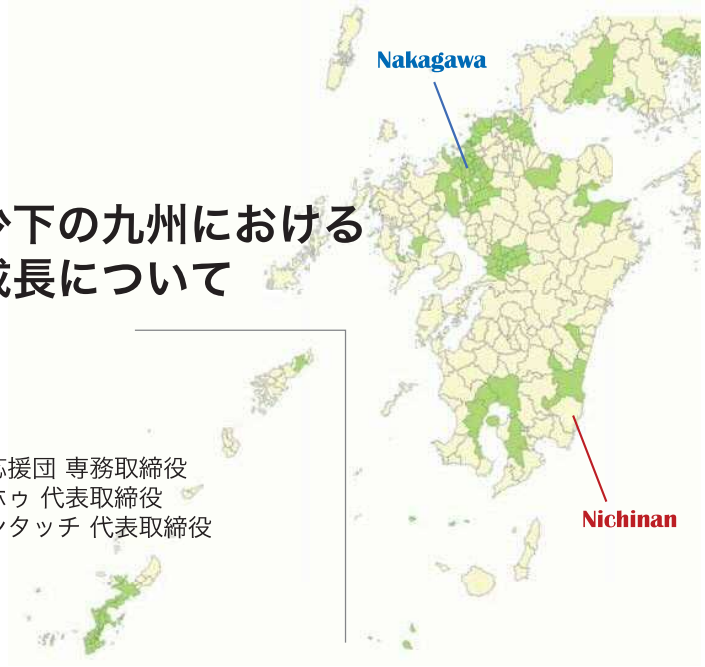
講　演

『応援・チャレンジの連鎖が地域を変える』

～ヒトに目線を合わせたまちづくり～

木藤　亮太

（株式会社 ホーホゥ 代表取締役 / 株式会社 油津応援団 専務取締役）



人口減少下の九州における地域の成長について

木藤 亮太
株式会社油津応援団 専務取締役
株式会社ホーホゥ 代表取締役
株式会社バトンタッチ 代表取締役

油津商店街は再生していません。

そもそも商店街はもう再生しません。

人口：約50,000人
年間700～800人↘
18～19歳の流出著しい

減少する5万人のまちの
シャッター商店街
全国333人から選ばれたあなた
毎月90万円あげるから
4年間のうちに
20のお店をつくれっ！

Before
麦藁帽子
香り高い世界の

全てはここから始まった
ABURATSU COFFEE
After
PIRATA
ABURATSU COFFEE

Before

応援団の力を結集！
二代目
湯浅豆腐店
After

ABURATSU GARDEN

日本建築士会連合会賞　優秀賞／2016

油津商店街（2013年当時）
組合員数：
①一番街商店街：10数名
②岩崎商店街　：7名

日南市
人口：約50,000人
年間700～800人↘
18～19歳の流出著しい

猫すら歩かない・子どもは近づいちゃいけない・・

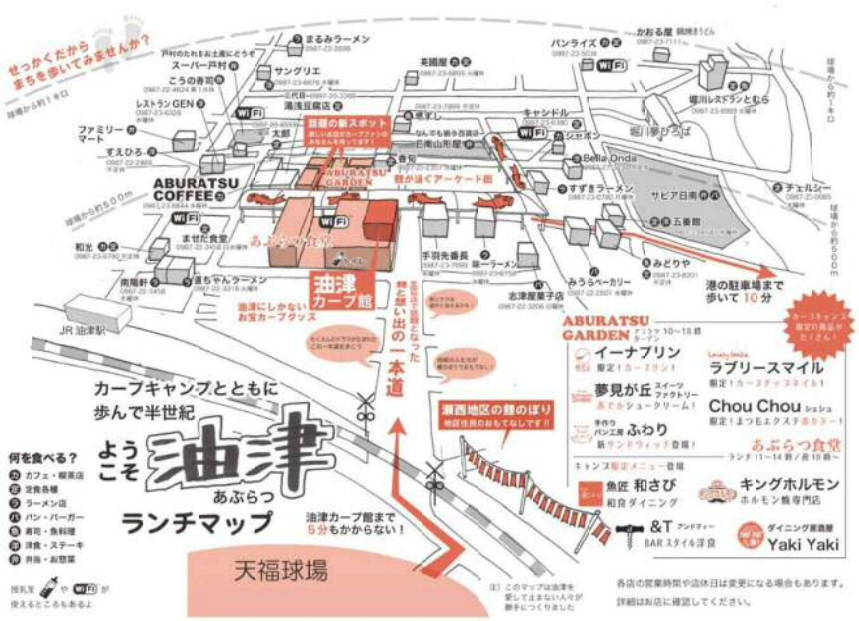
これまでの商店街の
良さを残し、引き伸ばす？

商店街に新しい“動き”をつくり、
風を入れ替える

Yotten
スタジオ
&
スクール

主催者
ダンスの先生
毎週木曜日継続的に活動

カープを活かす
Carp


カープキャンプとともに
歩んで半世紀
ようこそ油津
あぶらつ
ランチマップ
油津カープ館
天福球場
JR油津駅
ABURATSU COFFEE
ABURATSU GARDEN
イーナプリン
ラブリースマイル
夢見が丘
Chou Chou
ふわり
あぶらつ食堂
魚匠 和さび
キングホルモン
&T
Yaki Yaki

ABURATSU COFFEE

カープリン
1個 333円
(税込価格)

飫肥杉 × CARP

Nichinan Carp 油津55th
Since 1963
Let us be one ship like 飫肥杉
Carp
懐かしい豊かさ。
Carp
15

www.Bandicam.com
12
カープキャンプで大盛況!
奇跡の復活! 宮崎・油津商店街
Carp
歓迎
一本道

JR 油津駅

日本一のカープ駅をつくろうプロジェクト！
12月よりクラウドファンディング開始！
ロゴマーク（壁面塗装）
ベース白塗装
駅名（箱文字）
カープ坊や（タペストリー）
ベース赤塗装
Carp 油津駅
鉄肥杉駅名板（ロゴマーク）

Carp 油津駅

Before

After

商店街にIT企業

山陰 宮崎 10版 2016年(平成28年)1月23日 土曜日 朝日

東京のIT企業が油津商店街に進出

空き店舗を事務所に

H28.1.23 朝日

シャッター通りからの再生に取り組む日南市の油津商店街に、東京のIT企業「ポート」の進出が決まった。4月から事業を始め、3年間で50人以上の雇用をめざす。22日に市と同社の調印式があり、崎田恭平市長は「雇用が生まれ、人の出入りが増えるため、商店街の消費拡大につながる」と期待感を示した。

同社は、春日博文社長(27)が学習院大卒業直後の2011年4月に設立した。SNSを活用した企業の採用支援や旅行、美容、医療分野などの情報提供サービスを手がける。社員は93人(昨年12月現在)。

油津商店街では、元衣料品店の空き店舗(総床面積約800平方メートル)を事務所に活用し、インターネットメディアの記事編集やデータ入力の仕事をする。都外では初の事務所開設で、社員も新たに全国募集して約10人でスタートする。19年3月までに56人を雇う予定で、将来的には約100人の雇用をめざすという。

市はIT企業などを誘致するため、昨秋、企業の社員研修費用を1人あたり最大30万円補助する支援制度を設けた。同社は市の企業支援が充実していることなどから進出を決めたという。春日社長は取材に「こ

事務所となる空き店舗前で、改修後のイメージを崎田恭平市長(左)らに説明する春日博文社長(右から2人目)=日南市の油津商店街

入ると東京と変わらないOffice　外に出れば油津

小規模保育施設
→民間事業者

学校法人　吾田学園
あがた幼稚園

宮崎　10版　2016年(平成28年)1

油津商店街、来春に保育施設

IT企業の進出で若手社員にニーズ

日南

日南市で幼稚園を経営する学校法人吾田学園（日南市吾田西3丁目）が来年4月、油津商店街に保育施設をオープンすることが決まった。商店街に相次いで進出しているIT企業の若手社員の保育ニーズに応じることなどが設置の目的だ。

油津商店街では今年に入って6社のIT企業が進出を決め、すでに3社は営業を始めた。ほとんどの従業員は20～30代の若手。市は今後5年間で商店街で働くIT企業の若手社員は100人以上になると見込んでいる。

もはや商店街ではない!?

安倍首相にも褒められた！

昨年12月　共同通信記者会見にて
地方創生の好事例として
油津商店街の取り組みを3分以上に渡って披露

地方創生

先進事例に油津商店街

若者たちを始め地元の人たちが自らのアイデアでどんどんチャレンジしようと思い始めたこと。油津商店街に行けば、やりたいことが実現する。　そういうわくわくするような空気感が、商店街再生の大きな原動力になっています。

若者　地元
アイデア　チャレンジ
やりたいことが実現
わくわく
空気感

木藤亮太 Ryota KITO

1975年（昭和50年）生まれ　44歳

安徳の豆腐屋（高木）の孫
子供の頃は転勤族
第３分団５部（当時）にわずかながら参加
小倉西高→九州芸工大（修士まで）

1999年
●大学院修了

●福岡市内の会社員
九州内各地のまちづくりのお手伝い
那珂川町から通勤

2013年

●宮崎県日南市／油津商店街
テナントミックスサポートマネージャー
株式会社油津応援団 専務取締役

2017年

●那珂川市
事業間連携専門官
株式会社ホーホゥ 代表取締役

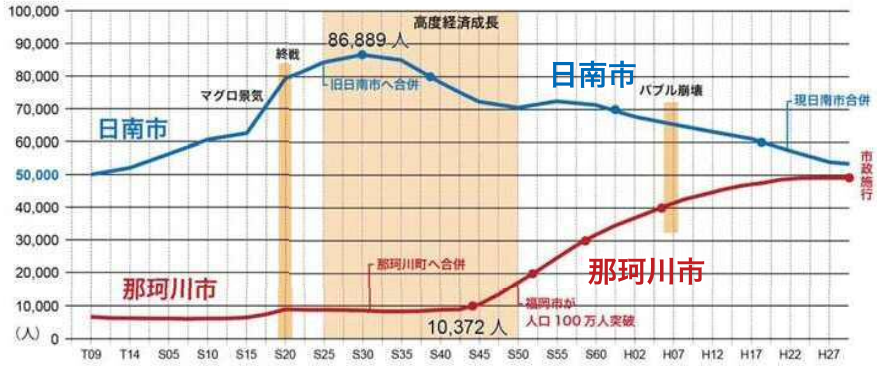
●その他　田川市,福岡市,宇城市 And more..

2019年

日南市　福岡ICから4.5時間　博多駅から8分　那珂川市

いま、博多南駅のビルがスゴい！

	那珂川市	日南市
出生数	486人	406人
死亡数	356人	828人
自分のまちで働いている	8,066人	23,440人
ヨソのまちで働いている	14,018人	2,082人
ヨソから働きにきている人	6,948人	1,884人



日南市と那珂川市
暮らしていて
どっちが
刺激的？

ABURATSU COFFEE

ギャプテン

Since 1988-2019 Restart

まちの状況を データ！
客観的に知り
思い込みはだめよ！
方法をしっかりと
見定める

商店街に傘咲いた

日南・アンブレラスカイ始まる

「私が好きな街 元気になって」

カラフルな傘を頭上につるして街を彩る「アンブレラスカイ」が13日、日南市の飫肥商店街で始まった。地元出身の女子高専生が企画し、インターネットで資金を集めて実現させた。約244本のビニール傘が60にわたって並び、お披露目会は写真を撮る人たちでにぎわった。

新鮮になったこの日、南星さん（18）が「思い切ってちょってもらいたいくらい楽しい」と喜べいた。

商店街では通路がカラフルなビニール傘に透け、地元に元気のような彩を添えていました。お披露目会は写真を撮る人たちでにぎわった。

南星さん（18）が「思い切ってちょってもらいたいくらい楽しい」と喜べいた。

アンブレラスカイはポルトガルが発祥で、街の活性化を考えつかれ、一年中やっていますいろんな方の支援によりまして実現できました」と感謝を述べた。

商店街で傘を貸す細山祭でアートと絵中症対策を兼ねるものとしておぜれた。

ときれる、世界中から観光客が訪れる近くに発で、日本でもテーマパークのハウステンボス（長崎県）やホテルで企画されている。

日南市出身の梅田さんは中学生から飫肥商店街の町おこし行事の手伝いを続け、合風や老朽化で商店街がなくなったアーケード撤去をけたことを企画。インターネットで資金を募るクラウドファンディングで約100万円を集めた。

梅田さんは「これを機に飫肥に来てもらい、私が好きなこの街が少しでも元気になって欲しい」と話している。

11月4日まで、22日から撤収日までは夜間ライトアップを予定している。

（小出千夏）

お披露目会で梅田南海さんは支えてくれた方々への感謝を口にした

お披露目会は地元の家族連れも訪れ、にぎわった＝13日、飫肥

集まっている金額

1,035,000円（目標 600,000円）

172%　105人　終了しました

同じエリアのプロジェクトを見る

このプロジェクトは成立しました！

※プロジェクトは2018年10月11日、合計1,035,000円の支援を集め成立しました。

このプロジェクトは、All-or-Nothing方式です。
目標金額を達成した場合にのみ、プロジェクトの終了時点で集まった金額が起案者に支払われます。

私を育ててくれた油津商店街に恩返しがしたい。

中学2年生だった私は、色々なことに思い悩み、毎日憂鬱な気持ちでしてた。
そんなとき！！学校の探究活動をきっかけに油津商店街が盛り上がっていることを知り、足を運ぶようになります。商店街の方々は、そんな私をあたたかく迎えてくださり、色々なお話を聞かせてくださいました。こうしていく中で、油津商店街に関わる方々の熱意に惹かれていきました。私の想いを発表する機会をいただいたり、学校でも情報発信をしたりするようになり、周りの人からは、「表情が明るくなったね。」と言われるようになりました。このように、悩みを抱えていた私に新たな居場所をくれ、成長させてくれた油津商店街への恩返しとして、アンブレラスカイをしたいと思いました。

まちの活性化は「お店ができること？」「人通り増えること？」

「一人ひとりが課題意識を持って考え、動くこと」が
継続的に起こりえるまちになること

★ABURATSU COFFEEを立ち上げるために村岡さんや黒田さんが動いた
★豆腐店をつくるために湯浅さんを中心に加藤くんや準三くんが実践した
★ABURATSU GARDEN・あぶらつ食堂・fan!の奥田くんが新しい商売に挑戦した
★田鹿くんをきっかけに多くの企業が油津にきた
★日登美さんが（いい意味で）バカになってカープ女子として盛り上がっている
★Maki先生やボニート・ボニートたちが日南を盛り上げようと踊っている
★高校生との夜市は5年目を迎え今はYottenの香織ちゃんが頑張って運営している
★本田くんは油津で影響を受けて飫肥でお店を立ち上げ
★準三くんは自分のデザイン事務所を立ち上げ
★黒田駿平くんはUターンして地元を盛上げる活動をはじめて

こうやってチャレンジの連鎖そして応援の連鎖が
起き続けていることが、油津商店街の魅力。

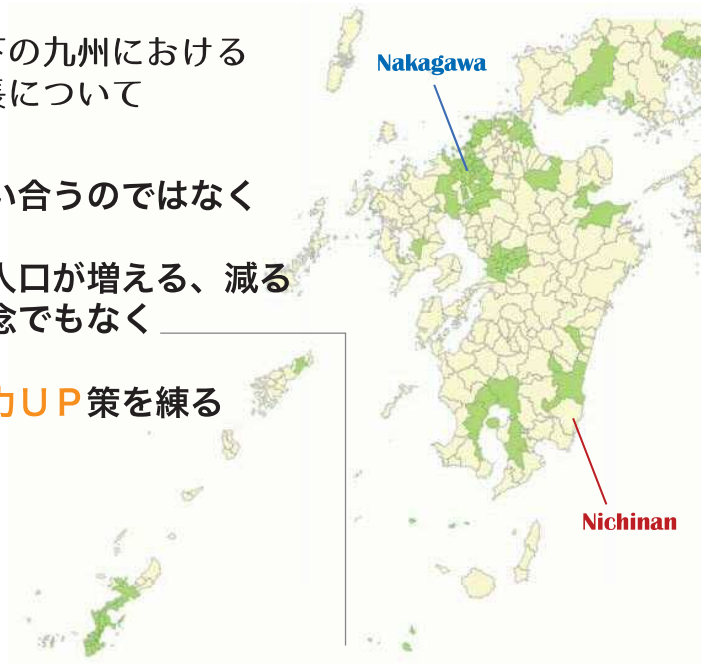
実は私が何をしているわけでもなく、
私はみんながチャレンジしやすい状況をつくり、
チャレンジを後押ししているだけ。

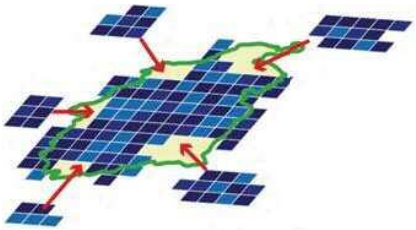
人口減少下の九州における
地域の成長について

人口を奪い合うのではなく

そもそも人口が増える、減る
という概念でもなく

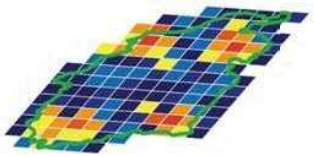
新たな活力ＵＰ策を練る





まちの活力
＝人口の数を増やす
税収、インフラ充実、行政サービス

＋増える時代が終わり
－減る準備をする時代になる



まちの活力
＝一人ひとりの温度を上げる
チャレンジ、自分ごと、シビックプライド

－メモ用紙としてお使いください－

講　演

『高速道路を活用した地域創生プロジェクト』

濵野　昌志

（西日本高速道路株式会社 九州支社 総務企画部 地域連携担当部長）

みち、ひと・・・未来へ。

NEXCO 西日本

第12回技術シンポジウム

交通インフラの利活用

～まちと人を道でつなぐ未来づくり～

NEXCO西日本九州支社 総務企画部

地域連携担当部長　　濵野 昌志

2020.11.12

---

1. 高速道路を通じた 地域連携

1. 自治体と連携して、観光振興に取り組んでいます。
2. カードラリーで西日本各地へGO
3. SA・PAを通じた連携事例

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

1−1 自治体と連携した地域の観光振興

高速道路が定額で乗り放題

自治体と関係団体と連携し、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

1−2 カードラリーで西日本各地へGO！

お国じまんカードラリー

NEXCO西日本管轄の各府県にある観光地やSAに設置したQRコードを読み込み、獲得できるスタンプを集める企画。抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえます。

【2019版実績】
- 応募者数　13,483人
- 西日本全スポット157制覇　64人

【2020版】
九州・沖縄地区では 44 スポット

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

1−3 ＳＡＰＡを通じた連携事例－①ウェルカムゲート

SA・PA
ウェルカムゲートを設置

高速道路を利用せずとも、
地域（一般道）側からの
ご利用が可能です。

【九州・沖縄】 27カ所

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

1−3 ＳＡＰＡを通じた連携事例－②地域連携イベント

SA・PA
地域連携イベント実施

NEXCO西日本管轄の各府県や
政令指定都市との間で締結して
いる「包括連携協定」に基づき、
SAPAのスペースを活用した
地域連携イベントを実施して
います。

古賀SA㊦（宮崎県福岡事務所）
東九州道利用促進ＰＲ、観光ＰＲ

別府湾SA㊦（大分県別府市）
観光ＰＲ

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

1−3 ＳＡＰＡを通じた連携事例－③多目的スペース

SA・PA
多目的スペースを設置

SAPAのリニューアルを機に、
店舗内スペースの一部に
多目的スペースを設置し、
地域情報等の発信に活用して
います。

R元年7月～8月　古賀SA㊦
九州各県の夏休みおすすめのスポットPR

R元年9月～R2年1月　古賀SA㊦
武雄・嬉野　復興応援観光PR

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2. 高速道路を通じた 地域創生

＜最近の共創事例＞

1. 高速道路を起点とした地方創生プロジェクト
2. 高速道路を活用した観光連携プロジェクト
3. 高速道路では初！SAにコワーキングスペース設置

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-1 自治体、地域戦略推進協議会との広域連携プロジェクト

佐賀県小城市

NEXCO西日本九州支社

福岡地域戦略推進協議会

2018.12.18　ニュースリリース

佐賀県小城市（小城市三日月町、市長：江里口秀次）、NEXCO西日本九州支社（福岡市博多区、支社長：廣畑浩司）および福岡地域戦略推進協議会（福岡市中央区、事務局長：石丸修平、以下「FDC」）は、「高速道路を活用した地方創生等のプロジェクト連携に関する協定」を締結しました。

このプロジェクト連携は、平成24年3月5日に、佐賀県とNEXCO西日本が締結した「地域活性化に係る包括的相互協力協定」を踏まえ、小城市が抱える人口減少や地域の活力低下といった課題の解消と、NEXCO西日本が管理する高速道路の更なる利活用を通じて小城市域の地方創生を目指すものです。プロジェクトの実施にあたっては、産学官民のプラットフォームとして地域課題の解決に資する事業創出に実績のあるFDCと連携し、リビングラボ（※）の手法を取り入れ、継続性のある事業創出を目指してまいります。

（※）新しいサービスや製品開発において、地域が一体となって課題抽出からサービス開発に至るまでを共創する活動

1. 高速道路を活用した地方創生等のプロジェクト連携に関する協定内容

1. 小城市域における地域資源の活用に関すること
2. 小城市域における高速道路等の地域インフラの利活用に関すること
3. 小城市域における観光振興に関すること
4. 地方創生等に係る人材育成に関すること
5. その他、地方創生等の推進に関すること

協定締結時の様子

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-1 高速道路を起点とした地方創生プロジェクト

小城市を知ってもらうきっかけとなる新たなお土産品開発-リビングラボ

小城市の課題解決と高速道路の利活用を通じて、地方創生を目指すことを目的に**市民と地元企業を巻き込んだ共創プロジェクト**としてスタートしました。

【第1弾】
- 参加市民（公募）　18 人
- 地元企業（協力）　4 社

2019.8/21	10/1	11/20	2020.1/22	8/24
第1回 アイデアソン（目的の共有）	第2回 アイデアソン（発散）	第3回 アイデアソン（収束）	第4回 サンプル試作	第5回 まとめ

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-1 高速道路を起点とした地方創生プロジェクト

約1年間のワークショップ（４チーム）を経て、新たなお土産品 4商品を開発。そのうち3商品についてはR2.9～順次販売開始、好調にスタート（①②については、販売直後は完売）

【第1弾】
- 参加市民（公募）　18 人
- 地元企業（協力）　4 社

① 市民×竹下製菓（トラキチ君アイス）＝「**トラキチ君シェイク**」
② 市民×みつば屋（小城羊羹）＝ひと口小城羊羹「**ogi cube**」
③ 市民×友桝飲料（ラムネ）＝小城市VR体感ラムネ「**おっ！ぎ**」

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-1 高速道路を起点とした地方創生プロジェクト

地元小城市をＰＲするサイダー「おっ！　ぎ」が１０日（9月）、発売された。
市民と企業が共同で商品開発したもので、私も一市民として参加させてもらった。
友桝飲料の全面協力のもと、観光体験自体をおみやげにするというコンセプトで、小城市を紹介する「おぎまんが」の小城乃はなさんにイラストをお願いし、写真家の久我秀樹さんに小城の名所を活写してもらうというぜいたくな作り。
久しぶりのデザインワークはとても楽しく、商品が金立ＳＡに並んだ時はついまとめ買いしてしまった。
近年、「企業が市民と共同で〇〇」というのがよく聞かれるが、一方で「企業＝作り手」と「市民＝買い手」という見えない壁を感じることもある。
今回のチームの「市民」は地域おこし協力隊、議員、行政職員、マーケッターといった各分野のプロがそろっている。
その知恵と企業の製品化のノウハウを突き合わせ、商品を開発していくプロセスは「市民＝買い手」という壁を超えた創造性があった。
地域の発信などの意義が伝われば、一肌脱ぎたくなる地元のプロはもっといそうだ。

※参加者市民の声： 参照元『佐賀新聞2020年10月16日朝刊＝記者の目＝市民の力で』をテキスト化

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-2 自治体との観光連携プロジェクト

大分県佐伯市

NEXCO西日本グループ

2020.10.23　ニュースリリース

SAPA2020 とりもどそう！元気なニッポン

令和2年10月23日
大分県佐伯市
西日本高速道路株式会社
西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社

大分県佐伯市（佐伯市中村町、市長：田中利明）と、NEXCO西日本九州支社（福岡市博多区、支社長：松田門）、西日本高速道路サービス・ホールディングス（株）九州支社（福岡市博多区、支社長：田島克彦）は、高速道路を利用して佐伯市へ誘客を図ることを目的とした連携事業「おかえりなさいきキャンペーン」を令和2年11月1日（日曜）から開始します。

キャンペーンは、「佐伯寿司たび」「ETC割引おかえりなさいき券」「宿泊者向けおかえりなさいき券」「大分県佐伯じまんカードラリー」の4企画から成り、大分県外から高速道路を利用して佐伯市に行くと、佐伯市のグルメ、観光、ショッピングなどをお得に楽しんでいただける内容となっています。

目玉企画となる「佐伯寿司たび」は、E34大分自動車道 山田サービスエリア（SA）（下り線）に設置された「寿司チケット小型自販機」に、佐伯市の12店舗の寿司店で使える「佐伯寿司チケット」が入っておりSAに立ち寄ったお客さまと、地域の日常を小型自販機でつなぐという初めての試みです。

NEXCO西日本グループでは「SAPA2020とりもどそう！元気なニッポン」という合言葉のもと、「新しい生活様式」でがんばる皆さまや地域の皆さまを応援しています。今回のキャンペーンは、SAを通じて、思いがけない出会いや体験の機会を提供することにより、地域を楽しんでいただける新しいクルマ旅の提案となっています。

写真はイメージです

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-2 高速道路を活用した観光連携プロジェクト

～高速道路を走って地域を元気に～
大分県佐伯市と連携し、**新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ県外観光客を呼び戻そうと、高速道路を活用したクルマ旅を新たに提案**する「おかえりなさいきキャンペーン」を展開

【開催期間】
令和2年11月1日（日曜）～
令和3年1月31日（日曜）

EVENT 1　**佐伯寿司たび**（旅の偶発性）
EVENT 2　ETC割引おかえりなさいき券
EVENT 3　宿泊者向けおかえりなさいき券
EVENT 4　**大分県佐伯じまんカードラリー**（別に実施中の仕組み活用）

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-3 大学、企業との共同研究・社会実験

宮崎大学 University of Miyazaki 創造政策研究室

NEXCO西日本九州支社

KYUSHU ISLAND WORK_ 九州アイランドワーク（株）

2020.1.9　ニュースリリース

高速道路では初！SAにコワーキングスペース設置
― 宮崎大学、NEXCO西日本、九州アイランドワークによる共同研究・社会実験 ―

令和2年1月9日
国立大学法人宮崎大学
西日本高速道路株式会社
九州アイランドワーク株式会社

国立大学法人宮崎大学 地域資源創成学部（宮崎県宮崎市、学部長：入谷貴夫、以下「宮崎大学」）、NEXCO西日本九州支社（福岡県福岡市、支社長：松田門、以下「NEXCO西日本」）および九州アイランドワーク株式会社（宮崎県宮崎市、代表取締役社長：鹿渡雅也、以下「九州アイランドワーク」）は、全国の高速道路では初となる、高速道路のサービスエリア（SA）にコワーキングスペース（※）を設置します。
今回の取り組みは、高速道路が潜在的に持つ可能性創造の観点から、コワーキングスペースを介した新たな移動形成等について、3者で共同研究・社会実験を行うものです。

（※）コワーキングスペースとは
作業スペースやミーティングルームなどを共有しながら仕事を行う施設や空間のことをコワーキングスペースと呼びます。
最近では、在宅勤務を行う専門職従事者や起業家、フリーランスだけではなく、学生や副業、パラレルキャリアを始める方、出張が多い方など様々な職業の方がコワーキングスペースを利用して活動しています。
また、働き方改革の一つとして挙げられている「テレワーク」を実践する場所としても利用されており、人材交流や共創といった利用者同士の新しい関係性をつくり出す場所としても注目されています。

<コワーキングスペースのイメージ>

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

2-3 高速道路では初！SAにコワーキングスペース設置

■設置場所：宮崎自動車道 山之口SA上り線

高速道路が潜在的に持つ可能性創造の観点から、コワーキングスペースを介した**新たな移動形成等について**、大学、企業との３者で共同研究・社会実験を実施しています。

【実験期間】
令和2年1月20日（月曜）～
令和3年3月末まで（予定）

- スマートキー（KIWアプリ）による小規模無人スペース
- 開始当初は最大7名、200円/時間・人
- 新型コロナウイルス対応として、1日利用（1000円）プランに変更中

©2020 West Nippon Expressway Co Ltd. All Rights Reserved.

－メモ用紙としてお使いください－

パネルディスカッション

『地域の発展と高速道路への期待』

コーディネーター：坂口　光一

パネリスト：村岡　浩司、木藤　亮太、濵野　昌志

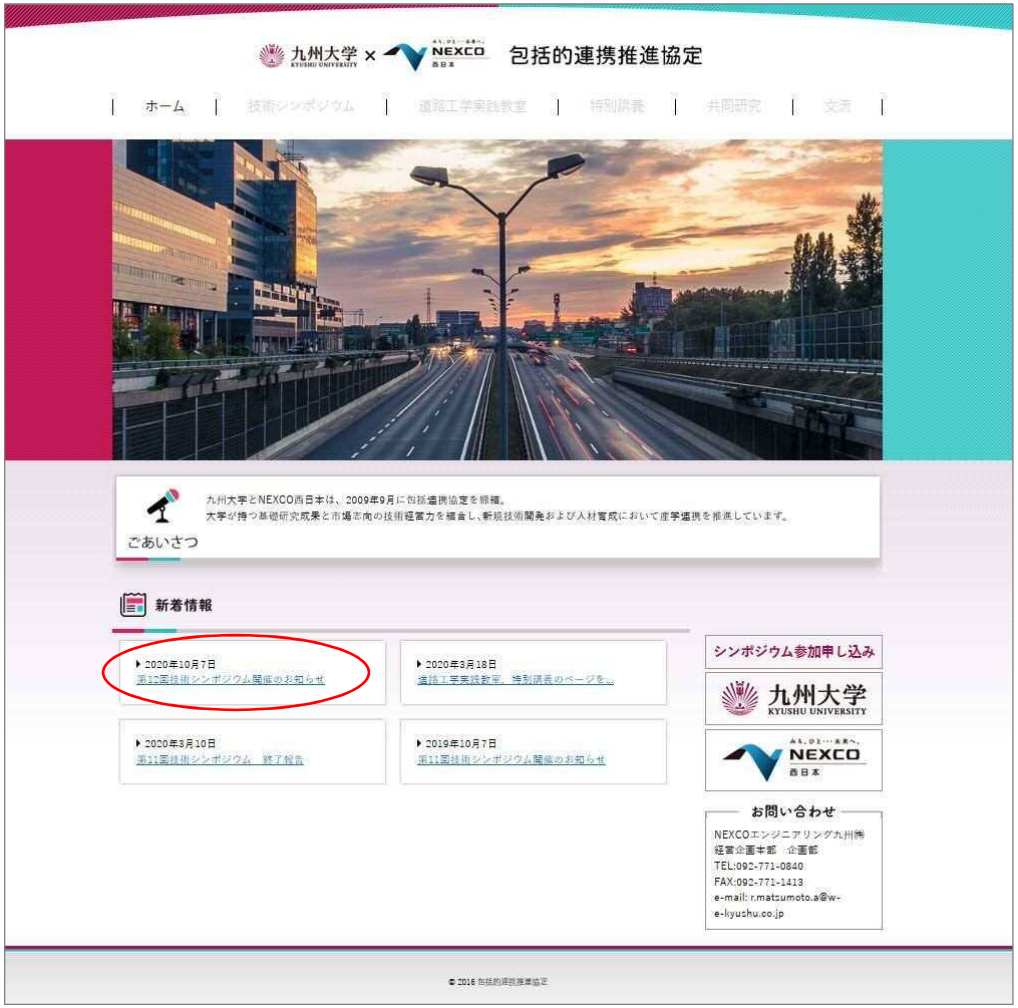
－配布資料はございません－

■配布資料（カラー版）について

- 配布資料（カラー版）がダウンロードできます。
- 以下のページにアクセスいただき、ダウンロードしてください。

https://www.kyushu-u-nexco.jp/

（「九大　ネクスコ」で検索）



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

NEXCO
西日本